

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度第3回相模原市支援教育ネットワーク協議会				
事務局 (担当課)		教育局学校教育部学校教育課 電話042-769-8284(直通)				
開催日時		平成31年2月6日(水) 14時30分～16時40分				
開催場所		会議室棟 第1会議室				
出席者	委員	12名(別紙のとおり)				
	その他	2名				
	事務局	5名(学校教育課宮原担当課長、青少年相談センター水野担当課長、他学校教育課3名)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 挨拶 3 議事 協議事項 (1) 新・相模原市支援教育推進プラン[後期改定版]の進行管理について (2) 医療的ケア体制整備の進捗状況について (3) 相模原市 教育振興計画の進捗状況について (4) 新・相模原市支援教育推進プラン[後期改定版]について ア 仮総括 イ 今後の方向性について 4 次年度の開催予定について 5 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり

事務局が開会し、学校教育課長の挨拶後、次第に沿って進行された。

議事(以下、 委員長の発言、 委員の発言、 副委員長の発言、 事務局の発言)

協議事項

( 1 ) 新・相模原市支援教育推進プラン[後期改定版]の進行管理について

通し番号 7 7 (各学校における送迎支援に係る対応策の検討)について何かありますか。

所管課は障害福祉サービス課になるが、相模原市社会福祉協議会が平成 3 0 年 1 月から障がい児通学等送迎活動経費交付事業を開始した。概要としては、通学をする際に支援を必要とする子どもに、地域のボランティア団体が送迎を支援するといったもの。活動 1 回あたり 3 0 0 円で行っており、今年度 1 月～ 7 月までの実績として、 1 0 7 回の活動があったと承知している。学校支援ボランティア制度との連携を強化したと聞いている。

通学等とあるが、他にも何か支援はしているのか。

○基本的には通学であるが、小中高、特別支援学校、児童クラブの送迎を行っている」と承知している。

通し番号 5 5 (関係機関との連携)について何かありますか。

児童クラブ等の巡回訪問を実施している。個別ケースに対する検討会議や研修などを行い、発達障がい疑われる子に対する接し方等を伝えている。

1 2 月末までに 3 1 回行った。

○児童クラブを巡回している指導員と学校とで、子どもの情報交換等は行っているのか。

○児童クラブの運営協議会の中で、学校の先生を含めてやり取りは行っている。子どもの詳しい情報については直接学校を訪問し、個別に聞き取りを行っている。

通し番号 5 (教育センター指導主事による要請訪問)について何かあるか。

校内研修講師として計 7 回、授業検討等で計 1 7 回実施したが、ほかの教科等の要請に対して、支援に関する内容の要請は比較的少なかった印象である。

○通し番号 1 4 (教育センターでの研究員研究の成果物の活用)については、研修において「事例集」を周知している。また、ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業づくりということで、2 校の研究推進校において研究を行った。2 校以外にも学校全体でユニバーサルデザインの視点に基づいた取組を行っている学校もある。

前年度作成した「発達障害のある子どもの理解と支援の手引き」の活用状況はどうか。

○研修等で、必要資料として活用している。

○通し番号30（巡回相談の充実）については、今年度は3名の支援教育指導員が学校を巡回したが、今後は、巡回相談のケース会議において「発達障害のある子どもの理解と支援の手引き」を活用しながら進めていきたいと考えている。

○通し番号50（就学相談の情報提供）については、各学校での入学説明会の前に、児童資料等を通して、就学先の学校へ情報提供を行っているところである。

○通し番号65（通級指導教室の増設等の検討）については、今年度新たに南区に通級指導教室を開設し、これで各区に設置が完了した。しかし依然としてニーズは高く、今後もさらに増設等を検討していく。

指導教室の数や通っている人数は。

サポートルーム（通級指導教室）は各区の小・中学校にそれぞれ1教室ずつあり、それぞれ35人前後が通っている。きこえとことばの教室は小学校に5教室あり50人前後が通っている。

サポートルームはとても有効である。市内には専門性の高い担任もいる。サポートルームのノウハウを各校に配置されている支援教育支援員にも広げていくと良い。同時に、サポートルームの専門性をもった若手人材をもっと育成して欲しい。サポートルームを増やしていくのは良いが、そこに配置する人材がいるかという問題が残る。最後に、市は小中一貫の考え方を進めていくのだから、サポートルームも、通学学区なども小中一貫での考え方が出来たら良いと思う。

○人材育成としては、今後、通級指導教室の担当者を特別支援教育総合研究所の2か月間の研修に派遣することを検討中である。

通学頻度など、小学校と中学校とで、通級指導教室の手法も違ってくると思うのでそこも検討が必要であろう。

手引きの活用については、更なる活用を目指し、児童支援専任教諭の連絡会や生徒指導主任会等で印刷物として配布することを次年度考えている。また、支援教育に関する施策的な面では、新たな教育振興計画に支援教育の在り方をしっかりと位置付けていく予定である。

通し番号39（特別支援学校の研修会の周知）について教育センター何かありますか。

○今年度、市内の学校へ特別支援学校の研修会の周知をしてきた。こちらはキャリア教育を学ぶ良い機会となっている。今後市の教育としてキャリア教育

を中心に位置づけていくということで、子どもの将来を見据えたキャリア教育についての研修会も企画していきたいと考えている。

○キャリア教育の捉え方も色々あるとは思いますが、特別支援学校では、特例子会社の担当者をお呼びして「企業と語ろう」の会を実施している。キャリア教育の視点で、未来を見据えて今後何が必要なのかを、企業と保護者が語り合う会となっている。今後、その情報提供などもできればと考えている。

○実際にキャリア教育を進めていくのは次年度以降になるが、教育局だけでなく、市長部局の経済部や福祉部等とも連携して進めていく。

通し番号57（協議会委員による学校巡回）について、12月に千谷委員に学校を巡回していただいた。当日の様子について事務局、千谷委員から説明をお願いいたします。

事務局・千谷委員より当日の説明がされた。

支援方法等に苦慮しているケースに、委員がコンサルテーションをしたとのこと。委員の巡回相談はいつまでやっていくのか。これをずっと続けていくのではなく、委員のスキルをいかに自分たちの人材に伝えていくか。支援教育指導員や支援教育コーディネーターなどの育成をしていく必要がある。

通し番号40（特別支援学校高等部の入選についての中学校校長会での説明）について、平成32年度に県立高校においてインクルーシブ教育実践推進校が始まる。進路の選択肢が増えるに当たって、様々な情報の混乱が生じることも予想されるので、関係機関へのスムーズな情報の伝達が求められる。

## （2）医療的ケア体制整備の進捗状況について

細田副委員長から医療的ケアの概要について説明後、経管栄養や吸引等について、それに用いる器具等の提示をしながら説明があり、その内容に質問が出された。

学校生活を想定した上で、胃ろうのカテーテルは抜けやすいものなのか。抜けることもあるが、抜けやすいというわけではない。胃ろうの注意点としては、栄養剤を注入する場合はあまり心配ないが、食事をミキサーにかけて注入する場合、食材が均一になっていないと、カテーテルが詰まってしまう可能性があると思う。最も注意が必要なのは、経鼻胃管で、鼻から入れた細かい管が確実に胃まで入っておらず、抜けかけていることに気が付かずに栄養剤を注入すると、栄養剤が気管に逆流してしまう事故につながる。

話を聞いていると、胃ろうがより良い方法なのではと思うが。

本人にとっても家族にとっても口から食べ物を食べることは、とても楽しみなことである。しかし誤嚥性肺炎などを繰り返すと、一般的にはまず鼻から胃まで管をいれて栄養を注入することになる。「胃ろうにする方が良いので

は」と思うかもしれないが、胃ろうを作るには外科的な処置が必要であり、外科的な処置には危険が伴う場合もあるので、すぐに胃ろうという訳にはいかない場合が多い。

事務局より「小中学校における医療的ケアの実施について」説明後、意見が出された。

医療的ケア運営委員会を設置することについて、何か意見はあるか。特にないようなのでそのまま計画通り進めていただくということで。様々なケースが想定される中、保護者から指示書以外のことも要求されることもあるかと思うが、そういった場合は、運営委員会で諮るという認識でよいか。

今の時点ではそういう形で進めていこうと考えている。将来的には、医療的ケアの専門医としての委託等も検討していきたいと考えている。

主治医が作成した指示書を学校側に立って説明してくれる人材が必要。担当医がいないと厳しい。保護者の役割ももっと具体的に決めていく必要もあるだろう。

### (3) 相模原市 教育振興計画の進捗状況について

事務局から教育推進計画の進捗状況について説明後、意見が出された。

これから具体的な施策へと取り組んでいく予定とのこと。基本目標2のオール相模原ということは、市立の特別支援学校や高等学校なども作って、それも含めてという認識でよろしいか。

○教育振興計画策定委員会の中で、特別支援学校の先生からも同じ質問を受けた。特別支援学校に通っている子供たちも、もちろんオール相模原ということで含めて考えている。だが、市として特別支援学校を作る等といったところまでは、現段階では想定していない。

財政的な課題もあるが、人材育成など様々な課題を解決していけたらと考える。具体的な施策等が出てきたらまた検討していきたい。

### (4) 新・相模原市支援教育推進プラン[後期改定版]について

事務局から、「プランの仮総括、今後の方向性」について資料の説明があった。

新たな教育振興計画が教育だけの計画にならないで、市長部局も含めた相模原市の計画にしていくのは大切なこと。教育は教育だけに完結しがちなので、この方向性で進めていただくのはとても良いと思う。

○多様な学びの場をどうつくってイけるか。ユニバーサルデザイン、不登校の子どもたちのこともキーワードに追加するべきだと思う。支援教育の理念、

取組に対する、みんなが分かるような共通した言葉があっても良いかも。

○支援教育の対象となる外国籍の子どもへの支援は、学校現場としては今後さらに充実して欲しい点である。多忙な学校現場では、十分に手がまわっていない状況、どうしても支援教育コーディネーターが日々負担を感じてしまっている。支援教育コーディネーターを機能させるための職員の加配があればと思う。

基本方針1の成果指標は相模原市独自の取組。今後も推進していくべき。だが、2、3の成果指標に関しては、文部科学省の指標である。市としてどうしていくのか独自性があっても良いかも。重点取組事項では、通級指導教室や巡回相談など、成果にある人的補充等だけでなく、次の段階を見据えた独自性のある取組が必要であろう。

○校内支援体制構築のための人的支援の充実に関して、「学級編成基準を7名とした。」と記載があるが、現場としては、学校ごとに現場の状況をみて対応して欲しい。

○教育だけではなく、福祉との連携がやはり大事。先日、自立支援協議会において、教育や福祉についてそれぞれを紹介するような時間を設け、その後、意見交換やグループワークを行った。とても好評だった。「トライアングル」プロジェクトは今後とても大切。

○特別支援学校でも、「トライアングル」プロジェクトとして、日常的に事業所等と連携している。目の前の子を見て、今後の成長である縦の接続と横の地域のつながりを大切にしたい取組が、市として目指していけたらと思う。

## 相模原市支援教育ネットワーク協議会名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	安藤 正紀	玉川大学大学院教授	委員長	出席
2	細田 のぞみ	相模原療育園施設長	副委員長	出席
3	千谷 史子	発達相談センター所長		出席
4	三橋 幸彦	神奈川県立特別支援学校長		出席
5	田中 宏明	小学校長会代表		出席
6	矢澤 真司	中学校長会代表		出席
7	芦野 拓	障害政策課長		出席
8	岡田 洋一郎	陽光園所長		出席
9	細谷 洋一	児童相談所所長		欠席
10	荒井 哲也	学校保健課長		欠席
11	松田 知子	教育センター所長		出席
12	小泉 勇	青少年相談センター所長		出席
13	農上 勝也	教職員人事課長		出席
14	細川 恵	学校教育課長		出席

児童相談所から秋間総括副主幹、学校保健課から峰岸総括副主幹が代理出席した。